

慶和園



今年はカンボジア料理！

めいすい・せせらぎユニット合同食事会

10月12日の昼食にあわせ、めいすい・せせらぎユニットにて合同食事会を行いました。今年は外国人スタッフを中心にご利用者にカンボジア料理を提供致しました。料理名はバンチェオ（写真右下）とボル・ボル・ポア（写真左下）です。見慣れない料理にみんな興味深々の様子でした。戸惑いながらも食べてみると皆さんから、「美味しい」という声。中にはおかわりをするご利用者もいらっしゃいました。料理を作ったスタッフに感想を聞くと「日本で作るのは初めてだったので上手くできるか不安だったけど、色々手伝ってもらいながら成功して良かった」と話してくれました。今回、予想以上に好評でしたのでまたこういう企画が出来れば良いと思っています。



コロナの影響により
約3年ぶり

ご家族との懇談会を開催

やって
良かった！



11月3日、約3年ぶりに「ご家族との懇談会」を開催することができました。「年末年始にコロナが流行する前に、出来るのは今しかない！」そんな思いからの開催でした。

当日のプログラムは、副施設長による現在の運営状況の報告の後、慶和園職員を紹介。その後ユニット毎のブースに分かれ、個別の状況報告（意見交換・プラン内容の確認等）、各居室の訪問（状況確認）について時間差を設けながら行いました。（各15分）ご家族の中には「今回、初めて居室に入った。」という方もおり、慶和園の雰囲気を感じていただく良い機会になったと思います。慶和園では、今後もこうした機会をつくりていきたいと考えています。



慶和園のD&I

多様な価値観・働き方を紹介

夜間帯の暮らしを守る

夜勤専門支援員



養護ユニットで夜勤専門支援員として働いています吉田翔です。8年前からご縁あって夜勤専門支援員として働かせていただいています。夜勤業務は、広範囲に多くの利用者に対して意識を向けなければなら

ない事や、大多数のご利用者はお休みになっていますがそれ故に普段とのちょっとした違いに意識を向けなければならぬところが難しいところだと思います。働きはじめの頃はコール音が耳から離れず、家に居てもコール音が聞こえることもありました。また月の大半を職場で夜を明かすので家で寝ると夜中に目が覚めます…。夜勤故にご利用者一人一人と深く関わる時間が取れないことがとても残念に感じています。少しでも関わる時間を確保していきたいと思っています。これからも自分の出来ることを出来る範囲で頑張っていきますので引き続きよろしくをお願いします。

『慶和園だより』NO.262 令和4年11月10日発行

〒044-0132 虻田郡京極町字更進 780 番地 1

TEL(0136)42-2201 FAX(0136)42-2209

編集発行：老人福祉施設 慶和園 広報委員会

発行責任者：施設長 澁谷 剛

※「慶和園」だよりに掲載の個人情報、ご本人もしくは、ご家族様の許可を得て使用させて頂いております。

◎今月の羊蹄山：畑クラブ今年最後の屋外活動は10月30日、にんにくの植え付け作業。来年も大豊作となることを願ってます。

-慶和園運営方針-

- ・慶和園はひとつ。ご利用者・職員で慶(喜)びの和を大切にします。
- 私たちは、チームでご利用者の想いを実現させます -
- ・慶和園は一人ひとりを大切にします。
- 私たちは、自分以外の全ての人に真心をもって親切丁寧に接します。
- ・慶和園は地域とのつながりを大切にします。
- 私たちは、地域における役割りを理解し信頼を得られる行動をとります。



慶和園「わたしたちの深化・進化」

～各ユニット・取組の進捗状況のご報告～

きょうごくしりべつユニット

「日々の会話を大切に」進捗状況

2022年度の慶和園運営テーマは、「ご利用者のために深化宣言！」

～私たちも進化しよう！！～

今年度も半分が過ぎ、各セクションにおける「しんか」の取組の進捗状況についてご報告させていただきます。今月は「きょうごくしりべつユニット」からの報告です。



きょうごくしりべつユニットでは、今年度は「日々の会話を大切に」を目標として意識し取り組んでいます。ご家族とのかかわりでは2ヶ月に一回ご家族様へ担当者から日々の様子・会話等を写真も交えたお手紙で送付しており、現在まで4回発送することが出来ました。また、ご家族様の窓越し面会時には職員からご本人の様子・変化をお伝えしています。その他、係長・副主任からご家族様への電話連絡も丁寧な対応を心がけ、対話を大切にしております。これからも普段の何気ない様子を写真にとり「こんな感じの

ご様子です。」と発信出来たらいいなと思っています。

ご利用者の誕生日にはユニットからプレゼントを準備。誕生日当日にサプライズのお祝いをさせてい

ただくと、皆さん驚いて嬉しそうにされており、自ずと会話も弾んでいます。



～ご利用者に訊く～ 私の歩みかた

養護ユニット 90歳 **大木 ハツエ 様**

慶和園の役割を
考える

特別養護老人ホーム ユニットケア慶和園

看取り介護について

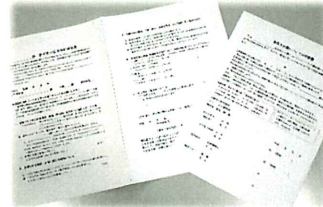


大木ハツエ様は、京極町脇方生まれ（脇方鉦山）、脇方育ち。小学校を卒業され町内の建設会社に就職。定年まで働かれたそうです。50歳頃に旦那様を早くに亡くされご苦労もありました。

それでも一緒に暮らされていたお舅さん、お姑さんに良くしてもらったお陰で無事に暮らすことができたとのことで、お二人ともハツエ様がお看取りされたとのこと。今思ひだす「楽しみ」は、我流で編み物を覚えお子さんたちにセーターや靴下、手袋を編んだ事。働いていた会社の旅行、仕事終わりにみんなでふきだし公園にあったジンギスカン屋での食事会等、語ってくれました。慶和園に入所され1年4か月。食事、お風呂の心配がなく皆さんとお話できるのが幸せ、とのこと。どんな時も周囲の方々を大切にされるハツエ様、インタビューへのご協力ありがとうございました。

今回は、慶和園における看取り介護のプロセスの一部をご紹介したいと思います。慶和園ではご利用開始時に、ご本人・ご家族により「終末期の事前確認書」を作成しています。これは、将来必ず誰にでも訪れる「最期」を考えるきっかけとして、終末期の対応（施設 or 病院・延命処置の有無など）をご家族に話し合っていたいただくもの。もちろん、入所後に変更が生じる場合もありますので、その時々のご家族の状況やご本人の状態に応じ都度相談を重ね、対応方法を更新していきます。

実際に「最期の時」が近くなった際には、主治医からご家族へ病状説明（インフォームドコンセント）が行われ、終末期の状態に入ってきたことを確認。ご家族がそのまま慶和園でのお看取りを選択される場合には、ご家族と慶和園との間で「看取り介護の同意書」を交わします。同時にご家族の意向を基に多職種チーム（介護員・看護師・栄養士・ケアマネ・相談員など）にて「ご本人にとっての最期」を話し合い、ケアプランを作成、看取り介護の内容（ご家族の意向等）を確認していきます。対応の内容はご利用者の状態変化に応じてご家族も含むチームで都度検討・変更しながらその時を迎えます。「最期の時」をどう過ごすのか、ご本人にとって、ご家族にとって「悔いのない最期」を共に考え、サポートしていきたいと考えています。



【ご厚志に感謝いたします。】

10月1日～31日分 << 順不同・敬称略 >>

【寄付品】 佐藤元子(倶知安町)-青木英一(同)-真狩羊蹄園(真狩村)-みのりの里共和(共和町)-日本ガード(札幌市)-鉄井キミ子(同)

【寄付金】 山田英男(倶知安町) 以上

【2022年11月10日 ～ 12月の行事予定】

【11月】 12・13日出張理容(菅原理容院) 12日出張理容(サロンドシエル)
14日出張理容(サロンドシエル) 26日出張理容(竹山美容室)
15日 養護ユニット 喫茶企画 31日 大晦日
28日 出張理容(竹山美容室)
29日 養護 ご利用者との懇談会
30日 慶和園実践報告会

～ 相手の心を想う ～ 施設長が考えたこと。

11月3日の「ご家族との懇談会」15分間と言う短時間でしたが、約3年ぶりにご家族によりご利用者の生活環境（各居室やユニット内の状況）をご確認いただくことが出来ました。懇談会終了後の参加者アンケートには「生活環境を確認し‘安心’しました。」等のご意見を多数いただきました。その一言で私たち、職員一同も‘安心’しています。引き続き、その一言をいただけるよう取組を重ねて参ります。施設長 澁谷 剛